

安八の昔話

142

上村地区

文 日本児童文学者協会会員

小森 波鏝子

大人への階段

戦争が終って四年ぐらいたった頃
やった。

村には十五才になると青年団に入ること
がきめられたるんやさ。入団すると先輩達の指導よろしくまずは五目ごはんの炊き方を教えてもらった。みんなと食べるてんご盛りのごはんは旨くあかすがたえ食べ慣れた家の漬け物でも御馳走やった。

団員ともなれば十五才であろうと一人前(?!)酒の飲み方も教わった。一口でカーッと熱くなり体全体が心臓の鼓動になった。

天気のいい日は提燈(ちていとう)のぼり、幕等(まくら)を館(かみ)から出してきて虫干(むしほ)しをしたんやさ。古いものがたくさんあってどれも大切にされとった。守つてゆく者の心意(こころ)を目(め)から教(お)えられたんやさ。

干(ほ)したものをちゃんとかたづけした後、ぼたもちを食べた。一日だけやったがこれがまた旨いのなんの、思わず顔がほころんだわな。。。

いい事も、そうじゃない事も先輩たちは人生の良き師であり指導者
やった。

協力者

上村前区長

土岐 正弘さん (72歳)

伊藤 勝美さん 岡田 富士雄さん

岩田 照子さん 大平 良一さん

岡田 實さん 高橋 栄治さん



ちょっと寄り道『安八町』

鎌倉時代に開かれた道・鎌倉街道 (安八町西結) へ

◆鎌倉街道・町屋観音堂 (写真下)

安八町西結地内 (結神社南方)

◆千日参り (写真上)

※平成24年8月10日撮影

源頼朝が鎌倉幕府を開いた頃、京都から鎌倉までの道『鎌倉街道』が整備されました。安八町町屋はその街道沿いにあります。この鎌倉街道は江戸時代に美濃路として整備され、政治、経済、文化など交通の要衝として多くの人々が行き交った「歴史の道」でもあります。

この街道沿いの町屋観音堂では、縁日の8月10日に「千日参り」の祭事が行われ、十一面観世音菩薩のご開帳があります。その菩薩の頂きには「てるてる」の一寸八分の黄金守り本尊が祀られており、訪れる人々を優しく見守ってくれます。



照手姫が小栗判官を想う一途な気持ち

『照手姫伝説』の世界を感じてみませんか・・・